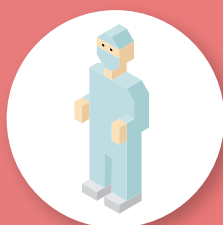
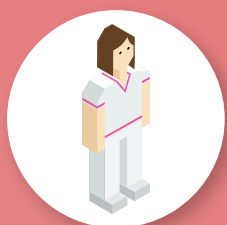
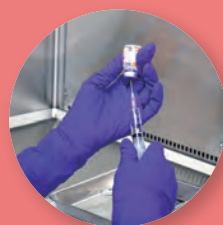
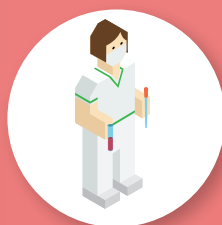
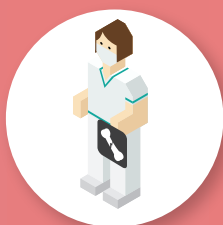
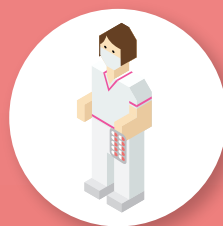
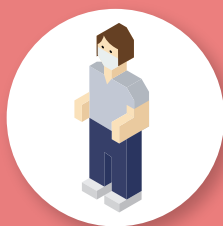
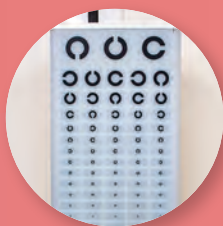
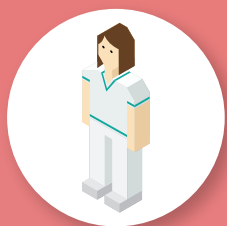
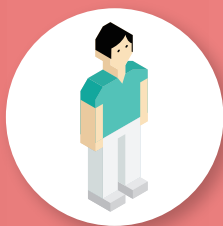


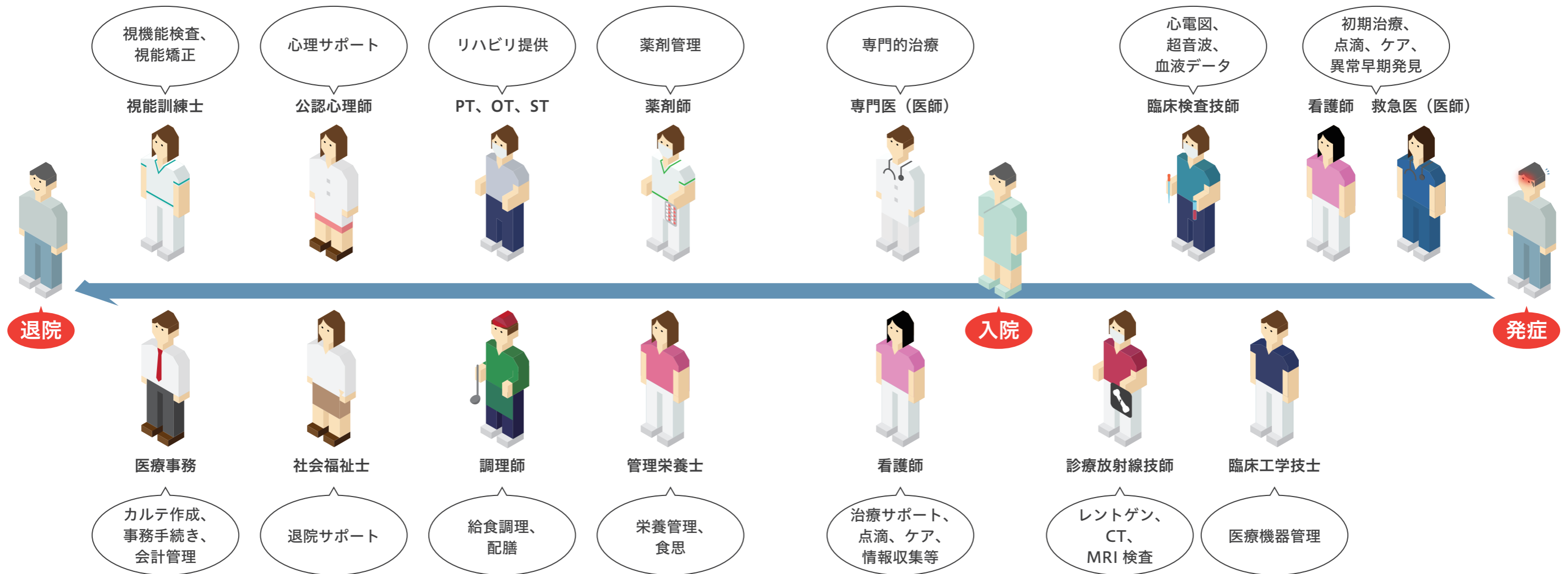
西南コンパス

目指せ！医療のエキスパート！

医療職 Vol.2 への道



患者さんと向き合う 医療従事者のストーリー



**全職種が協力して安心、
安全な医療を提供します**

患者さんが発症し、病院を受診、もしくは搬送されたところから医療従事者のストーリーは始まります。
多職種がそれぞれの専門知識を持ちより、チーム一丸となって患者さんと病気に真剣に向き合い、治療にあたります。

**多くの専門職が集まる病院で
重要なのは「チーム医療」**

医学の進歩、発展は目覚ましく、医療技術もとどまるところなく発展し続けています。それに伴い、各診療科も専門分野が確立され、細分化されています。医師だけでなく、コメディカル（医師以外の医療従事者）も同様で、様々な専門知識が求められるようになりました。安心、安全な医療提供を目指すためには、患者さんの病気に向き合うだけでなく、患者さんの生活環境や背景も理解しなければなりません。
こういった状況から生まれた考えが「チーム医療」です。各職種がそれぞれの専門知識を持ちより、協働

して患者さんと向き合う事で、様々なリスクを事前に発見し、最適な医療提供を目指すことができます。
医療従事者に求められるのは医療技術や専門知識だけでなく、お互いの専門性を尊重、理解してチームを機能させる協調性です。



助産師

出産・育児のエキスパートとして、ママと赤ちゃんをサポートします

助産師の仕事は、主に出産・育児のサポート、赤ちゃんのお世話などです。日本の法律では、今のところ、女性しか助産師にはなれません。妊娠中から出産後まで、ママと赤ちゃんが健やかに過ごせるようにアドバイスをしたり、体や心のケアをしています。ママと赤ちゃんの二人の命を預かるこの仕事は、大きな責任を伴いますが、新しい命の誕生はとても神秘的で感動します。無事に出産を終え、二人が退院するのを見届ける時、この仕事をして良かったなと感じます。赤ちゃんが好きな人、人と話すのが好きな人、体力がある

人はきっと助産師に向いていると思います。助産師の資格を取るには、高校を卒業してから大学や専門学校に行って看護師の資格を取り、さらに大学や専門学校に行って助産師の資格を取る必要があります。今できることを精一杯頑張ってください。皆さんの夢を応援しています。



保健師

保健活動で、地域住民の健康増進をサポートします



私たち保健師は、保健活動を通して地域住民の健康増進をサポートする役割を担っています。こういった活動を実践する場が総合健診センターです。当センターでは、人間ドックや就職のための健康診断、定期健診、がん検診など様々なサービスを提供しています。病院にありながら他の部門と大きく違う点は、「事前に病気を防ぐ」という事です。医師や臨床検査技師、診療放射線技師など多職種と密に連携して、病気や未病（病気に向かう状態）の早期発見に努めています。病気も早期発見、早期治療であれば完治する可能性も高く、治

療も軽度で済むことが多いです。また、未病の状態であれば、食生活や生活習慣を改善することで、病気を防ぐことができます。保健指導や健康教育を通して利用者の方の生活習慣が改善された時などにやりがいを感じます。多職種が一つの目標に向かって協働していくのが病院で働く大きな魅力だと思います。



医師

チーム医療のディレクターとして、患者さんの病気と向き合います



医師として働き始めて、1か月強が経過しました。入職当初は、右も左も分からず、無力さを痛感する毎日でしたが、同時に、様々な課題を見つけるチャンスでもありました。今も未熟ですが、一歩ずつ成長できていると思います。基本的に、担当患者さんの入院治療の計画や、カルテ記載、手技（採血、胸腔穿刺、ドレーン挿入、縫合など）、当直業務を行っています。医師として主体的に治療に関わるようになり、患者さんの状態が良くなっていくことの喜びを、より一層感じるようになりました。学生ときには見えなかった視点に気づ

かされることもあります。しかし、病状が思うように立ち行かない患者さんも居ます。その病態をどのように解釈し、どのような方針を立てていくのか、そこでしか得られない学びもあると思うようになりました。その一つひとつを、今後の医師人生の糧としていけたらと思っています。



看護師

患者さんに寄り添い、優しく温かい心ふれあう看護を提供します

患者さんに一番長く寄り添う職種が看護師です。患者さんの日々の容態を把握し、医師やコメディカルと情報を共有することで、より良い医療提供が可能となります。当院は総合病院で多くの診療科があります。子供から大人まで様々な患者さんの対応をしています。私は現在、手術室に勤務しています。24時間緊急手術に対応し、患者さんの安心・安全を第一に考え看護を行っています。また、災害医療派遣チーム（DMAT）に所属していて、災害時には迅速に活動できるよう常に準備をしています。2011年の東日本大震災では、現地の

医療従事者、自衛隊の方々と一緒に活動をしました。人の命に関わる看護師の仕事は辛い事もありますが、だからこそやりがいもあり、感動も沢山あります。女性が多いイメージがありますが、男性看護師も増えてきています。男女に関わらず信頼し合える仲間がいるから続けられる仕事だと思っています。





診療放射線技師

体内を写し出す プロのカメラマン

診療放射線技師の役割は、放射線を利用した機器を使って、医師が求める部位の画像を提供することです。放射線の線量を増やせば鮮明な画像が撮影できますが、患者さんへの負担が増えてしまうので、患者さんの安全を第一に考えつつ、医師の求める画像をしっかりと提供出来るようにしています。近年は女性の乳がんが増加しており、乳がん検診の普及を目的としたピンクリボン活動なども行われています。マンモグラフィや超音波検査で乳房の検査を行います。患者さんの体に触れる場面が多いため、不安にならないようコミュニケーショ

ンをとるなど心掛けています。私は、3歳の子を持つ母親として仕事と子育てを両立しながら、やりがいを持って今の仕事をしています。診療放射線技師はまだまだ男性の割合が多い職業ですが、女性でも働きやすい環境を作ってくれるこの病院で頑張っていきたいと思います。



臨床工学技士

医療機器の専門家として、院内の医療機器管理を担います



当院の臨床工学部では、大きく分けて血液透析業務、心臓カテーテル検査業務、病棟業務を行っています。総合病院であり救命救急センターも併設されているため、色々な病気と戦うための様々な医療機器があり、それらの管理を一手に引き受けています。その忙しい仕事環境の中でも血液透析を受けている患者さんから「ありがとう」という言葉を頂く事に、とてもやりがいを感じています。心臓カテーテル検査では心臓の血管を医師や看護師、診療放射線技師の人たちと連携を取りながら治療していきます。詰まった心臓の血管に血

液が流れ始める瞬間は、とても感動します。また、集中治療室に入院された患者さんには様々な医療機器が必要となるので、入院初期から関わりますが、重症の患者さんが元気になって、自分の足で歩いて退院していく姿を見るのはとても嬉しいです。



薬剤師

薬のスペシャリストとして、患者さんを支えます



薬剤師の役割は、医薬品の知識を生かし、患者さんに薬を安全に使用していただくようにすることです。薬剤部は、各病棟で薬剤管理をする病棟担当、抗がん剤治療の管理をする化学療法担当、点滴や飲み薬の調剤を行う調剤担当、薬の情報を収集・提供している医薬品情報担当、入院前に服薬状況を確認する入退院支援担当などに分かれています。私は現在、内科、眼科病棟を担当しています。飲み薬による治療が中心となるため、医師から処方された薬を患者さんが適正かつ安全に使用出来るよう、飲み合わせや用法用量の確認を

行っています。また、栄養サポートチームにも所属し、栄養部やリハビリ部、検査部等で構成されるメンバーと協力して、患者さんの栄養状態の管理に関わっています。それぞれ専門性を活かし、患者さんに合った栄養摂取方法の選択や点滴と食事のバランス等の確認及び計画を連携して行っています。



臨床検査技師

様々な検査で、診療をバックアップ

臨床検査部の役割は、医師が病気を診断・治療するための手がかりを提供することです。院内で幅広い分野の検査を担当しており、大きく分けると、心電図や超音波などの画像検査を担当する生理機能検査、血液や尿、痰などの検体を取り扱う検体検査の2つがあります。様々な検査のスペシャリストが集まり、自分の持つ知識を最大限に生かして仕事をしています。患者さんと直接会う事はありませんが、悪い細胞を見つけたり、異常値の報告をしたりなど、陰ながら活躍しています。私は現在、細菌検査（体内で悪

化している菌を探す検査）と遺伝子検査（感染症の原因となる病原体を検出する検査）を主に担当しています。菌には様々な種類があり、季節によって出会う菌が違ったりするので楽しいです。遺伝子検査は感染の流行を広めないために重要となる検査で、プレッシャーも大きいですが携わっていることを誇りに思っています。





言語聴覚士

ことばのコミュニケーションを支えます

リハビリテーションの中でも言語聴覚士の主な仕事内容は、病気や交通事故等により会話や食事が困難になってしまった方々に対して、機能が改善するよう評価や訓練を行うことです。また、小学校入学前のお子さんのことばの発達や発音の問題にも対応しています。当院のように急性期といわれる病院で言語聴覚士に求められる役割は、まず食事が食べられるのかどうかの判断です。そのためには様々な職種のスタッフと連携を図り、小さな変化も見逃さず訓練を行い改善につなげる必要があります。しばらく食べられなかった患者さんが一口水

を飲み、「…うまい」と言われた時には大きな喜びがあります。一人で出来ることは限られていますが、チームとして皆で協力しながら治療にあたることで、患者さんの改善につながるよう日々努力しています。



理学療法士

運動機能の維持、改善を図ります



理学療法士は寝返る、起き上がる、座る、立ち上がる、歩行など日常生活の基本となる動作の改善、障害の悪化予防を目的に運動療法や物理療法（電気や超音波など）を用いてリハビリテーションを行います。

当院の理学療法士は、運動発達がゆっくりな赤ちゃんから病気やケガで動作が不自由になった人全てを対象としています。具体的には肺炎や心臓の病気などで入院し体力が低下した人、脳卒中で手足に麻痺がでた人、がんや骨折の手術を受けた人、人工呼吸器をつけた集中治療室の重症患者さんなどに対して、一

日でも早い回復をサポートするため多職種と話し合いをしながら、その人に合わせたリハビリテーションを行っています。一人では起き上がれなかった患者さんが、歩けるようになり笑顔で退院された時などは、この仕事をやっていて良かった！と実感する瞬間です。



作業療法士

日常生活動作の維持、改善を図ります

食べたり、入浴したり、遊んだり、人の日常生活に関わる全ての活動を「作業」と呼びます。作業療法士は、病気やけがによって身体が不自由になった人や発達に遅れのあるお子さんを対象に、「作業活動」を通して、その人なりの生活の方法と一緒に考え、生きがいをもって、豊かに生きることを支援します。基本的な動作能力（運動や感覚の機能）、応用的動作能力（食事やトイレ動作、遊びなど）、社会に適応する能力（就学・就労など）を維持・改善し、その人らしい生活の獲得を目指します。

手の練習や食事練習により一人

で箸を使って食事がとれるようになる、立位・更衣練習などを通してトイレに行き排泄できるようになる、遊びを通して遊びの幅が広がり友達と一緒に遊べるようになるなど、できることが少しずつ増えていくと、一緒に喜びを共感でき非常にやりがいを感じます。



ICU 病棟でリハビリを行っている様子



急性期から取り組む、ベッドサイドのリハビリテーション

医学的にリハビリテーションは「急性期」「回復期」「生活期」に分けられ、当院リハ部では主に急性期リハを中心とした医療を行っています。急性期リハとは、病気が発症して命の危険があり、症状の進行、悪化が起これる時期にベッドサイドで行うリハビリの事です。病気の急性発症後に、安静臥床により生じる臓器の機能低下

下を最小限に食い止めるように、病気自体の悪化、障がいの進行に注意しながらリハビリを行います。この時期に適切なリハビリを行うことが、その後の回復に大きく影響するため、多職種が連携し、患者さんの性格や不安、社会環境などを踏まえた「オーダーメイド」のリハビリテーションを提供しています。



管理栄養士

栄養不良の早期発見と適切なサポートで患者さんを支えます



管理栄養士の業務内容は、入院中の患者さんへの献立作成や調理・盛り付け、配膳する食事の最終確認、食事改善が必要な患者さんへの栄養相談を主に行っています。また、食欲がない患者さんに対して、医師や看護師、薬剤師などと協力しながら食事内容を検討しています。糖尿病や高血圧症などの病気は特に食事改善が欠かせないため、栄養相談を通して患者さんが積極的に食事に取り組む姿を見るとやりがいを感じます。また、食欲がない患者さんが食べられるようになると、患者さんの表情も明るくなるので私も安

心します。管理栄養士は「給食のおばさん」と思われがちですが、病院での仕事は患者さんと関わる機会も多く、人と関わるのが好きな人にとっては充実した時間を過ごせると思います。日々勉強が必要ですが、そのやりがいも大きい仕事だと感じます。



調理師

調理の専門家として、病院給食を支えます

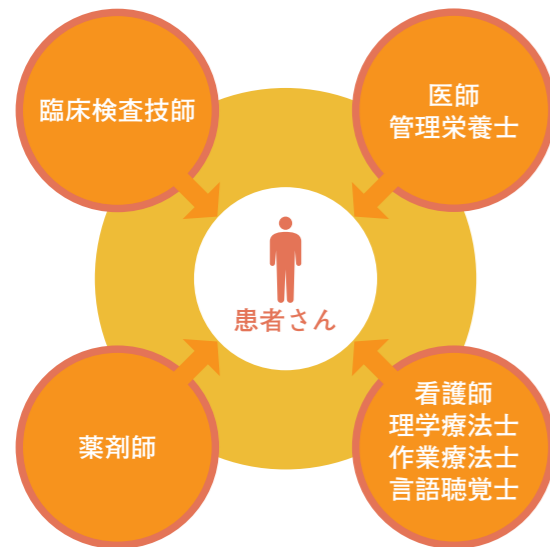
調理師の仕事は、入院患者さんや病院職員の食事を作り、盛り付け、配膳をすることです。早番、遅番があり、早番は早起きをするのが少し大変ですが、朝早くから調理をして朝食に間に合うように準備をします。朝食、夕食は200人前後、昼食は職員の人数である180人前後がプラスされる分の食事を作ります。それぞれの患者さんに合った食事を提供しています。患者さんと直接接する機会は多くありませんが、患者さんから食事に関するお礼や感謝の手紙をいただいた時はやりがいを感じます。

栄養部の取り組みとして、月に1回ほど全国の郷土料理を提供しており、調理師同士で話し合いながら試作し、満足いく料理になるまで味見をするのが楽しいです。頑張っている仕事に取り組んだ分、好きなことをしてリフレッシュをする時間があると充実していると感じます。



NSTメンバーそれぞれの役割

検査結果から患者さんの栄養状態を把握し、データを提示
栄養補給の方法や食事、栄養剤の種類などを提案



点滴などの薬剤の管理や薬剤の適切使用を推進
容体やリハビリの状況、摂食障害の状態などを把握

NSTとは栄養サポートチーム (Nutrition Support Team) の事で、医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師、リハビリ療法士など、多職種で構成された栄養のスペシャリスト集団です。栄養管理はすべての医療の基本です。私たち人間の身体は常に栄養を必要としており、栄養のバランスが崩れると体調不良をもたらします。どんなに素晴らしい医療を受けても、栄養がしっかりと摂れてないと、回復が大幅に遅れたり、容体が悪化したりする場合があります。NSTの役割は、患者さん一人ひとりにあった栄養療法を提供することです。患者さんの病状や治療内容、食事内容と実際の摂取量などから栄養管理が必要かどうかを判断し、必要であれば、食事内容や点滴内容を検討

します。NST(栄養サポートチーム)の役割



栄養管理は医療の基本 NST(栄養サポートチーム)の役割



視能訓練士

視機能の専門家として、眼の健康を守ります



人間の眼はとても複雑で大切な器官である為、多くの検査があります。視能訓練士は視力検査・眼鏡処方・視野検査や画像診断検査、手術前の検査など様々な眼科一般検査および特殊検査を行い、医師の診断や治療に必要なデータを提供し眼科医療をサポートしています。また、斜視や弱視などの早期発見のため地域の三歳児健診に参加し健診業務を行ったり、小児の斜視や弱視に対しての視能訓練を行ったりしています。眼が見えにくい状態の方には生活の質を上げる為、補助具の選定や日常生活でのアドバイスなどをするロービジョンケアを行

う事もあります。患者さんと直接関わる仕事なので感謝の言葉を頂いた時や、弱視治療と一緒に何年も掛けてがんばり成果が出た時はとても嬉しく感じます。まだまだ知名度が低い職種ですが色々な側面から患者さんに関わることが出来、やりがいのある仕事です。



医療事務

受付から会計計算まで 沢山の役割を担っています

私 達医療事務職員は、患者さんと最初に接する病院職員として、患者さんが診療をスムーズに受けられるためのサポートをしています。具体的には、症状を聞いて受診すべき診療科を案内したり、おこなった治療に応じた金額を算出して患者さんから頂いたりしています。

患者さんにとって、医療に関する仕組みや制度は複雑で難しいことが多いです。治療を安心して受けていただけるように、どうわかりやすく説明するかを考えながら日々仕事をしています。そんな時に頂ける感謝のお言葉がやりがいにつながって

る職業です。事務員は病院の経営に直接携わる職業です。事務員の仕事次第で、病院はより大きく成長することが出来ます。大きくなった病院はよりたくさんの患者さんを救うことができるようになります。皆さんも、私達と一緒に西南の縁の下の力持ちとなってみませんか？



社会福祉士

社会福祉の専門家 生活（暮らし）に困っている患者さんを支援します



あなたや大切な人が病気やケガになったとき、どのようなことに困りますか？学校や仕事に行けなくなる？介護が必要になる？治療費が心配になる？等々、病気や怪我によっては様々な心配ごとがでてきます。私たち医療ソーシャルワーカーは、病気やケガによって生活（暮らし）に困っている患者さんや家族の相談にのっている社会福祉の専門職です。国家資格である社会福祉士を所持していることがほとんどで、病院によって「医療ソーシャルワーカー」のほかに「社会福祉士」や「医療相談員」と言われることもあります。患者さんや

家族と相談しながら、社会福祉サービスを紹介したり、地域の様々な機関と連携しながら、安心して暮らせるようにお手伝いをしています。医師や看護師と違い治療することはできませんが、患者さんが生活に困らないように支援することは、患者さんのこれからの人生を左右する重要な仕事だと思えます。

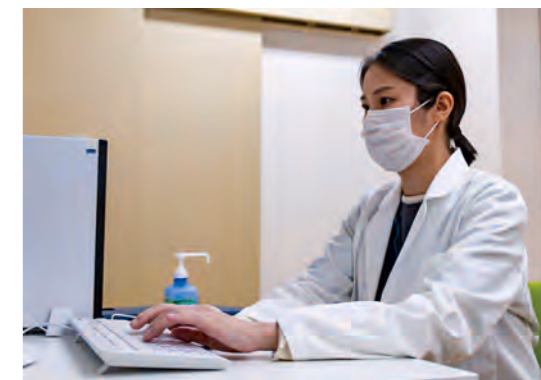


公認心理師

心の専門家として、患者さんの「こころ」の問題にアプローチします

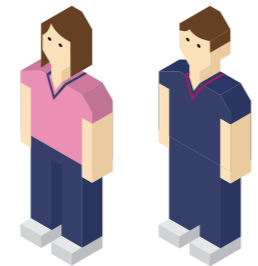
大学を卒業後、大学院で2年間勉強して、国家資格である公認心理師と民間資格である臨床心理士を取得しました。現在は、お子さんの発達や認知症に関する検査を行ったり、心や体に問題を抱えた患者さんの対応をしています。病院には、体の病気に対する悩みを抱えている方や、心の問題から体に色々な症状が起こっている方がいます。そういった患者さんと相談しながら、一緒に悩みを解決したり、症状を良くしていくことができるため、とてもやりがいのある仕事だと思えます。仕事をしていく上で、日々新し

い知識を身につける必要があるため、本を読んだり、研修会に参加したりと大変な面はありますが、その分自分の成長にも繋がると思えます。他にも、様々な患者さんやスタッフとの関わりを通して、物事に対する幅広い考え方を学べると思えます。



患者さんやスタッフを支えるその他の職種が病院には存在しています

医療スタッフをサポートする医療秘書と看護助手



看護助手 医療秘書

院内のスタッフがより診療に集中できるように、事務的負担を軽減するための職種が医療秘書（クラーク）や看護助手です。医療秘書はカルテや検査結果の管理など、患者さんに関わる様々な情報処理を担います。看護助手は看護師と共に患者さんのサポート（病院内の環境整備等）を行います。

栄養管理と病院給食

栄養は医療の基本です。管理栄養士が患者さんそれぞれにあった献立を考え、調理師と炊事員が給食を作ります。患者さんによっては病気や宗教上の理由で

食べられない食材もあります。個々の状況に応じ、限定された材料で美味しい料理を提供しています。



炊事員

患者さんの情報は電子カルテに保存

患者さんの情報は電子カルテで一元管理され、治療に必要な情報が共有できるようになっています。職種によってアクセスできる情報が分けられるなど、セキュリティ対策が施されています。システムはS/Eが管理しています。



システムエンジニア

言語聴覚士

大 短 専

大学・短大・専門

国家試験の受験資格を得るには、国の指定を受けた養成校の卒業が必須条件です。

国家試験

国家試験合格率…67.4%

就職先

医療機関、老健施設、教育・研究機関、公務員など

理学療法士

大 短 専

大学・短大・専門

国家試験の受験資格を得るには、国の指定を受けた養成校の卒業が必須条件です。

国家試験

国家試験合格率…87.4%

就職先

医療機関、老健施設、教育・研究機関、公務員など

助産師

大 大 短 専

大学・大学院・短大・専門学校

大学で看護師、助産師両課程を修了、もしくは看護師資格取得後に大学院等で助産師課程を修了し、国家試験受験資格を取得します。

国家試験

国家試験合格率…95.6%

就職先

医療機関（病院、クリニック、産院）

医師

大₆

医科大学、医学部（6年制）

医学に関する幅広い知識や技術を学びます。6年制の課程を卒業、もしくは卒業見込みの者が国家試験を受けることができます。

国家試験

国家試験合格率…91.6%

就職先

医療機関、大学の研究機関、製薬企業など

医療職への道

医療関係の仕事に就くためには、国家資格の取得が必要となります。これらの資格の多くは、大学や短期大学、専門学校で学ぶことで、国家試験の受験資格を得る事ができます。

看護師資格と助産師、保健師資格の関係

助産師や保健師の資格は、大学在学中に看護師課程と並行して助産師課程、もしくは保健師課程を履修することで、同時に資格取得が可能です。しかし、その分勉強の量も増え、また、看護師資格がないと助産師、保健師の国家試験に受かっても、免許は得られません。ただし、合格実績に有効期限はありませんので、翌年に看護師国家試験に合格すれば申請が可能となります。

ダブル取得は無理だと思ったら、看護師資格を取得後に養成校等に通って資格取得を目指す方法もあります。

スペシャリストとジェネラリスト

技術の進歩がめざましい医療現場では業務の細分化が進み、それぞれの分野で専門的な知識や技術を持ったスペシャリストの育成が求められています。

医師は診療科が細かく分けられており、卒後2年間の研

修医期間を終えた後、それぞれが専門とする診療科を選び、その道を追求していきます。医師以外の医療職にも同じように様々な専門分野、認定資格が存在しています。

例えば薬剤師であれば、がんの治療薬に特化した「がん専門薬剤師」があります。臨床検査技師では「認定輸血検査技師」や「超音波検査士」などがあります。

一方で、専門にこだわらず、広範囲にわたる知識を持つジェネラリストとして活躍する事も可能です。

医療職は資格取得がゴールではありません。患者さん、病気と向き合い、チーム医療で他職種から学び、成長していきます。資格取得後も様々な道があり、自分を大きく成長させることができる。それが医療職の大きな魅力と言えるでしょう。

※各資格の合格率は2022年度のデータとなっています

視能訓練士

大 短 専

大学・短大・専門

養成校で3年以上学び、国家試験取得を目指します。また、大学や短大等で指定科目を履修していれば、1年制養成校ルートもあります。

国家試験

国家試験合格率…89.3%

就職先

医療機関、福祉施設、保健所、医療機器メーカーなど

作業療法士

大 短 専

大学・短大・専門

国家試験の受験資格を得るには、国の指定を受けた養成校の卒業が必須条件です。

国家試験

国家試験合格率…83.8%

就職先

医療機関、老健施設、教育・研究機関、公務員など

保健師

大 短 専

大学・短大・専門学校

大学で看護師、保健師両課程を修了、もしくは看護師資格取得後に短大等で保健師課程を修了し、国家試験受験資格を取得します。

国家試験

国家試験合格率 93.7%

就職先

医療機関、社会福祉施設、訪問看護ステーション、保健所、行政機関など

看護師

大 短 専 高 専

大学・短大・専門・高専

看護師国家試験の受験資格を得るためには、国の指定を受けた養成校の卒業が必須となります。

国家試験

国家試験合格率…90.8%

就職先

医療機関、社会福祉施設、訪問看護ステーション、保健所、保育所、幼稚園、企業など

調理師

短 専 高

短大・専門・高校

国家試験受験資格には、養成校を卒業するか、実務経験2年以上が必要です。卒業時に調理師資格が取れる短大、高校もあります。

国家試験

国家試験合格率…70.2%

就職先

医療機関、給食センター、ホテル、旅館、飲食店など

管理栄養士

大 短 専

大学（栄養学科）・短大・専門

国家試験を受けるには大学卒業が一番の近道です。栄養士資格取得者は在学年数+実務経験年数=5年以上で受験資格を得られます。

国家試験

国家試験合格率…56.6%

就職先

医療機関、介護施設、老健施設、委託給食会社、食品メーカー、教育関係など

診療放射線技師

大 専

大学・短大・専門

国家試験の受験資格を得るには、大学（4年制）、専門学校（昼間部3年、夜間部4年）の養成課程のある学校の卒業が必須です。

国家試験

国家試験合格率…87.0%

就職先

医療機関、検査施設、医療機器メーカー（研究・開発）など

薬剤師

大₆

薬科大学、薬学部（6年制）

薬学部を持つ大学は国内に79あり、国家試験の受験資格を得るには、これら6年制の薬学部卒業が必須条件です。

国家試験

国家試験合格率…69.0%

就職先

医療機関、調剤薬局、製薬企業（研究・開発・営業）、公務員（保健所、麻薬取締官等）など

公認心理師

大_院

大学、大学院

指定の大学卒業後、数年の実務経験を積み、指定の大学院を卒業する事で受験資格を得られます。

国家試験

国家試験合格率…48.3%

就職先

医療機関、教育・研究機関、企業、公務員（司法・法務・警察）など

社会福祉士

大

大学

福祉系大学（4年制）が最短ルートです。一般の大学や短大卒でも実務経験年数を積み、養成施設で学ぶ事で受験資格を得られます。

国家試験

国家試験合格率…44.2%

就職先

医療機関、教育機関、行政機関、福祉施設など

臨床工学技士

大 短 専

大学・短大・専門

国家試験の受験資格は、国指定の養成校卒業が必須ですが、医療資格系養成所で指定科目を履修した場合、専攻科での取得も可能です。

国家試験

国家試験合格率…85.4%

就職先

医療機関、医療機器メーカーなど

臨床検査技師

大 短 専

大学・短大・専門

国家試験の受験資格を得るには、3年以上の養成課程のある学校の卒業が必須です。

国家試験

国家試験合格率…77.6%

就職先

医療機関、保健所、検査センター、企業（製薬・食品・医療）など



編集後記

今この冊子を手にしている中学生、高校生に向けて

新型コロナウイルスの流行により、本来であれば様々なことに挑戦し、自身の可能性を広げる大事な時期に、無情にも我慢を強いられている君たちが、職業選択の機会を奪われてしまうことを危惧し、病院で患者さんを支えるやりがいある職種を紹介するパンフレットを作成しました。病院では、君たちの個性や能力を必要とする様々な仕事があり、その力を合わせることで、日々の患者さんの回復を支援しています。皆様の健康を祈念しつつ、数年後、今この冊子を手にしていただくあなたと、ここ西南で一緒に働ける日がくることを楽しみにしています。



茨城県厚生農業協同組合連合会
茨城西南医療センター病院

〒306-0433

茨城県猿島郡境町 2190

TEL : 0280-87-8111 (代表) FAX : 0280-86-7702 (代表)

<https://www.seinan-mch.or.jp/> E-mail : info@seinan-mch.or.jp

- 2023年5月10日発行 (2,000部)
- 編集発行／茨城西南医療センター病院 主任・係長会
- 発行責任者／人育成検討委員会
- 取材・編集協力／JA 茨城県厚生連 総務部